

災害統計グローバルセンター(GCDS)防災白書作成ワーキンググループの第1回会合を開催しました(2018/9/28)

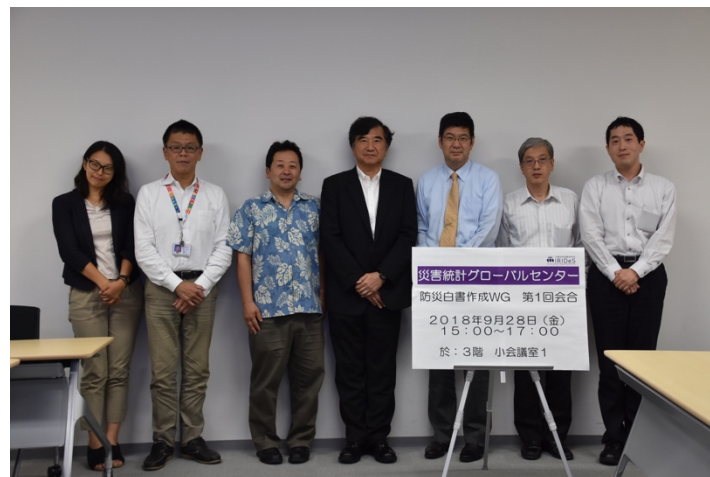
テーマ：災害統計の整備、国際連携

場所：東北大学災害科学国際研究所 3階 小会議室1 (仙台市青葉区)

2018年9月28日(金)、災害統計グローバルセンター(GCDS)防災白書作成ワーキンググループの第1回会合が開催されました。本会合は、災害統計グローバルセンター(GCDS)における重要な目標の1つである「防災白書(White Paper)の国際的な普及」に向けて、センター職員を主な構成員として開催されるものです(今年度は、災害統計グローバルデータベース(GDB)等を活用した防災白書の骨子等の作成を目標に、2回(9月・翌年3月)の開催を予定しています)。

本会合では、はじめに奥村誠副センター長(教授、人間・社会対応研究部門)が座長に選出され、以降の議事進行を務めました。続いて、日本における防災白書作成の経緯等について、名古屋大学減災連携研究センターの西川智教授から基調講演を頂いた後、インドネシアにおける防災分野の年次報告書等の実態等について、センター職員の佐々木大輔助教(情報管理・社会連携部門)から事例報告がありました。また、その後の自由討議では、防災白書(国際版)の骨子等を作成するにあたり如何なる点を重視すべきかについて、活発な議論が行われました。

災害統計グローバルセンター(GCDS)では、引き続き防災白書の国際的な普及を目指して、学際的・分野横断的な研究活動を進めてまいります。



会合の参加者

文責：佐々木大輔(情報管理・社会連携部門)